

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 25 年 8 月 23 日		
所属学部・研究科	文学部 3 年次 (留学開始時点)		
留学先大学	トゥールーズ・ルミライユ大学 (国名：フランス)		
所属学部・学科等名	DEFLE		
在籍身分	交換留学生		
留学期間	平成 24 年 9 月 3 日 ~ 平成 25 年 7 月 8 日		
1. 渡航について			
ビザについて	ビザの種類： 学生ビザ		
	ビザ申請先： 在日フランス大使館		
	取得方法, 提出書類： 仏大使館 HP 要参照。毎年内容が若干変わります。		
	手続きに要した日数： 4 か月		
その他必要な事前手続き	なし		
出国年月日	平成 24 年 9 月 3 日		
経路	福岡国際空港→インチョン空港→シャルル・ドゴール空港→トゥールーズ(TGV)		
現地での出迎え	<input type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	到着後 2 回ほどオリエンテーションがあり、大学での手続き方法やクラス振り分けテストの説明を受けた。		
帰国年月日	平成 25 年 7 月 8 日		
経路	シャルル・ドゴール空港→インチョン空港→福岡国際空港		
2. 留学経費について			
所要経費	総額	85 万 円	
	内訳	渡航費	13 万 円
		保険料	17 万 円
		教科書代(学費)	2 万 円
		宿舍費	12 万 円
		食費	25 万 円
		その他 (交通費)	1 万 円
(雑費)	15 万 円		
(費)	円		
3. 授業について			
2012 年 1 学期	9 月 24 日 ~ 1 月 19 日		

留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	賞味期限の確認をしましょう。平気で期限切れの食品が並んでいることがあります。	
(3) 危険を感じた地域、状況		
大学周辺。大学の敷地内から出ないのが無難です。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 27 年 3 月	(当初の卒業予定年月 平成 26 年 3 月)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4 年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input checked="" type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	就職活動を一年ずらして行う予定です。	
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫		
6. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等		
書籍、サイト名	詳細 (出版社、URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
仏語学習者はご存知かと思いますが、現地では全てがフランス語です。初級の段階での 1 年間の交換留学は、得られるものが限られると思います。		

学習の概要に関するレポート

トゥールーズ・ルミライユ大学はトゥールーズにある国立大学の第二大学であり、主に人文系の学部を持っています。私は学校間の交換留学生として DEFLE という、外国人のためのフランス語学部に所属されました。学部としては、5年生まであり、一年間、または半年間の留学生は初めにフランス語能力を測るテストを受け、各学年に振り分けられます。私は3年生に振り分けられたので、他の学年のことは知らないのですが、3年生のカリキュラムとしては、5つの授業が提供されており、更に3つの授業の中からオプションで選ぶというものでした。また、授業時間は2時間ですが授業によっては週に2回行われる授業などがありました。基本的にオプションを含めた6つの授業は強制的に受講しなければなりません、交換留学生の場合は義務ではありません。また、交換留学生であれば、他学部の授業も履修することができます。とはいえ、その他の授業は全てフランス語で行われ、生徒の大多数がフランス人又は、フランス語圏出身の人であるため、相当のフランス語力がなければ授業についていくことができません。また、フランスの大学の授業は教養科目などが少ないため、専門性が求められる授業ばかりですので、フランス語能力の他にも高い専門知識が問われます。私は1セメスターでは、DEFLE の提供している授業を全て履修し、2セメスター時に専門であるフランス文学の授業をひとつ聴講しました。DEFLE の提供している授業ですが、基本的にはフランス語を学ぶ授業です。しかし、3年生になると語学の授業だけでなく、文学や歴史などの授業も行われます。同じ授業でもグループによって先生が違う、授業内容が多少違うという差異がありますし、特に先生との相性も大事ですので、なにかあればグループなどを変えることができます。とにかく、全ての授業に共通するのは、全てフランス語で授業が行われるということです。おかげで、朝から晩までフランス語漬けの生活を送ることができました。テストに関しては、セメスターのはじめに自分で中間試験と期末試験の平均で点数を決めるか、期末試験の点数だけで決めるかを自分で選ぶことができます。先生によっては出席や提出物を考慮することもあります、やはり一番重要なのは試験そのものです。HUSA プログラムを通してよかったことは、大学間協定なので授業が互換できること、そして大学やビザ取得の手続きがかなり簡略化されたことなどがあります。ただ、現状 HUSA プログラムでの協定校がフランスではミライユ大学しかないため、今後広島大学のフランス語学習者のためにもより多くの協定校が増えることを願っています。

生活の概要に関するレポート

大学のある、トゥールーズという街はフランス国内では比較的都市部に位置づけされており、2番目に学生数の多い学園都市とも呼ばれております。そのため、学生への割引や優遇制度の多いフランスの中でも更に学生の住みやすい街となっています。例えば、市内を走るバス、メトロ、トラムを全線、無制限に乗ることのできる定期券が学生（25歳以下）ならば一か月10ユーロ、または一年間100ユーロで利用できます。映画館やクラシックコンサートなども3～6ユーロで入場することができます。トゥールーズ以外でもフランス国内の美術館や博物館などで学生ビザ又は学生証を提示すると無料で入館できます。住居については、大学の紹介する寮に住んでいました。中でも私が住んでいた棟は改修されたばかりで新しく、トイレ、シャワー、キッチンが部屋の中についており、少し狭いですが快適でした。家賃も220ユーロでしたが、CAFという住宅補助を申請すれば毎月約90ユーロの補助金が支給されたため、実質130ユーロですみました。しかし、このCAFへの申請が大変で申請から補助金受給まで7か月ほどかかりました。申請が複雑である上、必要な書類が外国人の場合入手が難しく、また毎年必要書類の詳細が若干変わるため、出国前に書類をそろえるのも難しいです。必要書類はいつでも取り寄せやすいように日本の家族と連絡を取っておくのは大事です。大学は寮からバスとメトロを乗り継いで行くことができます。30分ほどなので、時間もそれほどかかりません。ただ、ストライキやデモなどが頻繁に起こり、交通止めになる、バス会社自体がストライキを起こすなどのハプニングで遅刻してしまうということはよくあります。大学の周りにはあまり治安がよい地区ではないのでメトロの駅から大学までの道以外はあまり一人で歩いたりしない方がいいです。大学のキャンパス自体はそれなりに広く、迷いやすい構造になっているので慣れないうちは授業に遅れることもありました。トゥールーズはバラの街とも呼ばれていて、全体が赤レンガでできた建物が立ち並び、とてもきれいです。中でも旧市街地や街の中心などは観光客も多く、散歩するだけで景色を楽しめます。また、街をガロンヌ川という大きな川が通っているため、夏になると川沿いの公園でピクニックをすることもあり、とても活気のある町です。気候は全体を通して日本に近く、冬はそれほど寒くなく、5月を過ぎれば一気に暖かくなります。ただ、今年はフランス全土で異常気象だったので、突然寒くなったり、雨が降り続いたりすることがありました。